

三原市民と市長の「みらいトーク」(第4回) 実施結果

令和3年2月9日

目 的 市長が地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

日 時 令和3年1月18日(月曜日) 15時から16時30分

場 所 久井保健福祉センター(久井町)

参加者 子育てカフェ (5名)

三原市長

子育てカフェについて

- ・団体設立年月 平成30年8月(令和3年1月現在 会員6名で構成)
子育て中の方が孤立しないよう、子育ての大変さ、楽しさを共有し意見交換ができる場、地域で子育てを応援できる場所づくりをめざして活動中。
- ・活動内容 地域の方や小中学生のボランティアによる本の読み語りや特技披露、その他季節のイベントなどを実施

主な質問と回答

項目	意見内容	市長の回答
久井町の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢になっても元気な方が多い。 ・家が広い。子供がのびのび育つ。三世代同居がほとんど。とんど祭りができなかったが、自分の田で家族だけでやった。 ・裸まつり、祇園祭など行事を通じて人がつながり、地域の歴史を大事にしている。 ・自然が豊かだからできることもある。蛍の幼虫の放流を行っているが、ずっと続いてもらいたいと思う。 ・風景も良い。 ・意外にアクセスが良い。高速道路, 空港, 新幹線, 色々使える。東京へは飛行機で, 1時間半で行ける。空港までは20分もあれば行ける。あまり不便さを感じず生活できている。 ・人が良い。ボランティアという意識なく, みんな色々なことを手伝ってくれる。何かを始めるのに協力を得やすい。人と人のネットワークがすごい。そのおかげで子育てカフェも色々できている。冒険遊び場でも, ジャングルジム, 炭など, 自分で作られるものは自分で作る。人のために動く人が多いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一軒家で家が広いのは田舎の良さと思う。共働きの友人は, 夫婦ともにテレワークで同時にオンライン会議をすると干渉しあってしまうようだ。 ・地域の祭りなど, 人の繋がりや強さも久井の財産だと思う。お祭りは, 大人と子どもの交流が深まるきっかけだと思う。 ・ふるさとへの思いを育むうえで, 自然環境は大事だと思う。私も幼少期に見た風景は今も記憶に残っており, 育った町に愛着がある。 ・コロナの影響で地方移住が増えていると聞く。移住先を選ぶ際に, アクセス性は大事。移住を検討している人に, 三原市へ来てもらうための取組を今後やっていく。 ・人のために動ける人が多いことはすごいことだと思う。とても価値のあること。みんなで作り上げようとしている姿勢を子どもに見せられることも, 良いと思う。

子育てカフェについて①

- ・毎月第4土曜日の13時から16時に開催している。
- ・好きな時に来て、好きな時に帰っていい、自由。遊び方も自由。本人が好きなように遊んでいい。
- ・年に4回、クリスマス、ハロウィン、ひな祭り、七夕のイベントを実施している。七夕には地域の方が竹を提供してくれたり、クリスマスには木を提供してくれたり、ひな祭りではひな人形を寄付してくれたり、地域の協力を得ながら楽しんでいる。
- ・100円で飲食を提供していたが今は行っていない。
- ・図書館の読み語りイベントと連携して、読み読みの開催時間(土曜日の13時半)に合わせて子育てカフェを実施している。そうすると、読み語りをするようになった子どももいる。
- ・学校とも連携がとれている。子どもの特技を披露し、自信をつけさせる場にもなっている。
- ・中学校には運動部しかいないため、文化部を新設し、ボランティア活動を部活動として認めていただけないか。
- ・ただ、後を継ぐ人がいないという課題もある。就労している人も多い。中学生が主体で運営し、私たちはサポートにまわるようにできないかと思う。
- ・就労もだが、熱意をもってこうした取組をしようとする人が少ない。

- ・すごいことだと思う。
- ・子どもも積極的に来る、支える皆さんがいるという、とても良いことだと思う。
- ・どうやって皆で力を合わせていくかと思う。

<p>おひさま食堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な方の支援もあって、これからこども食堂が動き始める。名称は「おひさま食堂」。コロナの状況を見ながらではあるが、3月27日から始める予定。 ・カフェ参加者だけでなく、地域の方にも利用してもらって、地域の居場所にしていきたい。 ・食材を地域の方からの寄付に頼っていいのかなという不安もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は晴れるといいなと思う。 ・楽しみにしている。
<p>子どもの習い事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習い事をしようと思うと久井町内だけではできない。市街地へ出ないといけないが、送迎に時間がかかる。時間的に制約があるため、習わせたいことを習わせることができない。図書館で Wi-Fi を使えるようにして、学校で配られた端末を活用してオンラインで習い事をするとかできないか。久井町内でもできることが増えたらいいなと思う。 ・久井で水泳を習えとうれしい。B&G のプールがあるが夏しか利用できない。プールを使おうと思うとリジョンプラザへ行くしかない。 ・リモートで英語を習い、語学力を高めている子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の Wi-Fi 環境は確認する。 ・GIGA スクールの流れもあり、学校の端末持ち出しを許可するなど、工夫次第で可能かもしれない。検討する。

児童用遊具

- 自然は多いが子どもが遊ぶ遊具がない。B&G 近くの久井運動公園にあるが、作りが古く「遊ばせよう」と思えない。「どこで遊ばせよう」と思う。
- 福富の道の駅までの規模でなくていい。少しでいい。
- 「子どもを育てる」という雰囲気を感じられなかった。家族しか知らない親たちの中には、どこで遊ばせていいかわからず息苦しい思いをしている人もいる。週末わざわざ市外へ遊びに行っているが、地元で遊べないというのは悲しい。
- 「孫が来てもつれていく公園がない」という声もある。
- 気持ちの面が大きい。
- 久井町内で子育て世代が遊べる場所を紹介しようとしても、公的な場所がない。あっても古いから危険で使えない。お寺が解放してくれることもあるが。「図書館へ来たついでに」くらいの軽い気持ちで、芝生で遊べるようにしたい。アンケートをしたが、文化センター周辺という希望が多かった。
- 少しの遊具があるだけで、「子育てを応援している」という雰囲気を作られる。以前は、子育てをしている人に向けた支援が感じられなかった。町にそういう雰囲気がない、何とかしようということで、全戸回覧で署名を集め、平成 30 年の 3 月に要望を提出した。その内容はほぼ解決したが、遊具設置だけが残っている。その後 6 月に面談したが豪雨災害が発生し、話が進んでいない。
- 公の場所に子育てを応援する空気があって欲しい。

- 遊具の設置は色んなところで声を聴く。
- 子育てを応援する空気は大事と思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の設置位置は、くい文化センターの東側にある芝生広場の一部が理想である。 ・親から離れて子どもだけで遊ぶ場所が欲しい。ここの芝広場なら大人の目が届く。 ・数年前に、グラウンドゴルフ協会からは遊具設置を了承していただいている。 ・可能であればインクルーシブ遊具が嬉しい。ただ、インクルーシブ遊具はまだ認知度が低い。 	
<p>団体活動の広報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てなどに悩んでいるお母さんや遊ぶ場がわからない子に知ってもらえるように広報をしないとイケないと考え取り組んでいるが、なかなか認知度が上がらないと感じている。 ・ボランティア活動なので、告知放送をしてもらえない。市の催し事ではないので、「してもらってもいいのかな」と悪い気もしている。しかし、告知放送を聞いて参加してくれる人もいる。 ・どうやって周知していくかも課題と考えている。 ・遊具があると、遊具目当てに来た子どもに子育てカフェを知ってもらうこともできると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうやって知ってもらうかは確かに課題。三原テレビやFMみはらは力になってくれる。 ・市としても協力できる面があるのではないかと思う。検討する。
<p>空き家探し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Uターン、Iターンで久井に住もうとする人が、なかなか空き家を見つけられない。「ちょっと行ってみようかな」という人にとってハードルが高い。資源があるのにもったいない。空き家バンクよりも情報がはいる仕掛けができるといいと思う。 ・地域おこし協力隊も、今後活用したい住居を探している。田舎に暮らしたいと思っている人に「自力で探し 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家自体はたくさんあるが、「後々戻ろうと思う」「時々戻っている」「手放したくない」という所有者がいると聞いている。 ・ただ、マッチングが弱いとも感じている。 ・利用希望者のプレゼンを所有者が聴く場面を作るというのはおもしろい。

	<p>てください」ではなくバックアップが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「活用してもらえらんだったら貸してあげる」と気持ちが動いて活用させてくれる所有者もいるかもしれないので、何か良い仕組みがないか。 	
中学校の部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・久井中学校には運動部しかない。それが理由で他の中学校へ通う子もいる。ボランティア活動をクラブ活動で認めるなど、何か良い策はないかと思う。 	
県立広島大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人との接点が少なく、全く知らない人もいる。療育の大切さや障害を個性と捉える視点などについて、小さいころからの教育が必要と思う。 ・三原には県立広島大学の保健福祉学部がある。大学がある強みを活かして、こういう教育にも力を入れるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学があり、地域の活動に積極的に取り組んでいる学生もいる。そういった連携の仕方ができればもっと理解が広がるかもしれない。
適応指導教室	<ul style="list-style-type: none"> ・旧三原市内には適応指導教室があるが、久井と大和にはない。久井から一人通っているようだが、通うのが大変。合併前は久井町にもあった。学校へ行けない子どもでも、行く先の選択肢は学校しかない。行き先の選択肢は増やしてもらいたい。 	

<p>デジタル化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に進めてもらいたいですが、私たちのような苦手な者にとっても優しくデジタル化を進めてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルが苦手な方がたくさんいることは承知している。そういった方々に対しても優しい形のデジタル化を進める。「デジタルに対応できないからさようなら」ということは絶対にしない。 ・回覧板は地域の効果的な情報源として力を発揮していると認識している。デジタル化を進めるからといって、こういった効果的なものをすぐ廃止しようというわけではない。
<p>子どもが集まりやすい場所づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイエで活動しているが、当初は空間の雰囲気は冷たくて、本当にここで活動していいのだろうかという雰囲気だった。 ・久井は遊ぶところがないので、小学校高学年くらいになるとここに集まるが「静かにしていないといけないのだろうか」という雰囲気子どもたちが過ごしている。 ・暖かい雰囲気を出し、子どもが自由に楽しめる場所になるよう工夫できないかと思う。ここしかない。 ・高学年が集まっておしゃべりする場所がない。市内だと児童館とか図書館とかある。そんな規模でなくていい。普段から「子どもが遊んでいい」と言ってもらいたい。ここしかない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが居心地の良い雰囲気づくりは大切。 ・図書館、文化センターに確認する。